



トーカロ株式会社

2024 年 3 月期 第 2 四半期決算 会社説明会

2023 年 11 月 8 日

イベント概要

[企業名]	トーカロ株式会社		
[企業 ID]	3433		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 2 四半期決算 会社説明会		
[決算期]	2023 年度 第 2 四半期		
[日程]	2023 年 11 月 8 日		
[ページ数]	38		
[時間]	13:30 – 14:10 (合計：40 分、登壇：23 分、質疑応答：17 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	145 m ²		
[出席人数]	20 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	小林	和也（以下、小林）
	取締役 常務執行役員 管理本部長	後藤	浩志（以下、後藤）
	経理部長	細見	憲司（以下、細見）

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



経営企画部長

清水 浩 (以下、清水)

[アナリスト名]* いちよし経済研究所

大澤 充周

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、
SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたのでただいまからトーカロ株式会社様の決算説明会を開催いたします。今回の説明会は会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインと合わせたハイブリッド形式で開催させていただきます。初めに会社からお迎えしている4名の皆様を紹介申し上げます。まず、代表取締役社長執行役員の小林和也様です。

小林：小林です。よろしくお願いします。

司会：よろしくお願いいたします。次に、取締役 常務執行役員 管理本部長の後藤浩志様です。

後藤：後藤です。よろしくお願いします。

司会：よろしくお願いいたします。次に、経理部部長の細見憲司様です。

細見：細見です。よろしくお願いします。

司会：よろしくお願いいたします。次に経営企画部長の清水浩様です。

清水：清水です。よろしくお願いします。

司会：よろしくお願いいたします。

本日は小林様からご説明いただくこととなっております。ご説明後、会場から質疑応答の時間とまづいたします。続きまして、今回オンラインでご参加されている方からもご質問をお受けする予定です。なお、ご質問のある方は、会社名、お名前をご入力の上、チャットにてご入力、ご質問くださいようお願いいたします。質問は説明中も受け付けております。

それでは小林様、よろしくお願いいたします。

小林：皆さんこんにちは。社長の小林です。本日はご多用の中、トーカロ株式会社の決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。本日はリアルとライブ中継合わせて60名近い皆様にご参加いただいているようです。それでは始めます。よろしくお願いいたします。

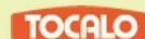
サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com





社長就任のあいさつ（自己紹介）



1989年	入社 東京工場製造部に 4 年間勤務
1993年	溶射技術開発研究所
2004年	明石工場 大型 F P D 生産工場の立上げ
2009年	北九州工場 製造次長／2014年 工場長 海外半導体装置メーカーとのビジネス立上げ
2018年	明石工場長
2021年	常務執行役員 製造本部長
2023年	代表取締役 社長執行役員

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

2

まず、私の自己紹介から始めたいと思います。今年初めてこの決算説明会に出させてもらっていますので、私の生い立ちについてちょっとご紹介させていただいて、私は 1989 年入社しまして、東京工場にまず配属を受けました。東京工場の製造部で 4 年ほど仕事をした後に、溶射技術開発研究所、それから明石工場に移って、明石工場時代は大型 FPD 生産工場、FPD の生産から工場建設まで、そういうものをやって FPD の生産を立ち上げた。

その後、北九州工場に異動して、2014 年には北九州工場長になりまして、海外半導体装置メーカーとのビジネスを立ち上げてきました。その後、明石工場にもう一度戻ってきて、そして 2021 年に常務執行役製造本部長となりまして、本年度代表取締役社長になりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





社長就任のあいさつ

TOCALO

引き続き中期経営計画を積極的に推進します。

● 安全を最優先

- ・安全に働ける職場づくり（JISQ45100の取得）
- ・綺麗で、機能的で、人にやさしい職場づくり

● 真摯な物づくり

- ・作業手順を遵守し、顧客の品質基準を満足する
- ・作業員一人ひとりが責任感を持って作業する

● 徹底的な生産効率の向上

- ・より一層の溶射効率の改善を図る
- ・生産システムを自動化して生産効率を高める

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

3

方針につきましてですが、私は製造本部長時代に当社の中期経営計画のこの策定に参画しております。中期経営計画をこれからも積極的に推進していきたいと思っております。その中でも、私は製造畑出身なもので、特に注力するのはこの3点を注力していきたいと思っております。まず一つ目は安全を最優先した物づくりをすることです。ISO45000とか、JISQ45100とか、そういうシステムを当社に導入して、安全な職場づくりに推進していきたいと思っております。

それと、当社で今最も注力しているのが、「綺麗で、機能的で、人にやさしい職場づくり」、これは男性も女性も関係なく働ける職場を作っていこうというのを目標としていますので、これを推進していきます。それから真摯なものづくり、当たり前のことですが、作業手順を遵守して、顧客の品質基準を満足させていくというのをやっていこうと思っております。

それから「作業員一人ひとりが責任感を持って」と書いてありますが、私が社内にこう言っているのは、一人ひとりが自分のこだわりを持った、これぞ自分の品質だっというような物づくりをしてほしいというのを社内では推奨してまして、一人ひとりが自分の責任においてものを作っていくんだという自覚を持ってもらうように話をしています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

それから最後ですけど、徹底的な生産効率の向上を目指したいと思っています。より一層の溶射効率の改善や、それから生産システムを自動化して生産効率を徹底的に持ち上げると、そこに注力をしていきたいなというふうに考えております。

簡単ですが、私の方針はそういうふうにしております。



本日の内容

1. 第2四半期連結決算の概要
2. 2024年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

それでは本日の内容に入りたいと思います。本日説明させていただく内容はこの三つです。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



第2四半期連結決算 ハイライト

POINT 前年後半からの半導体分野の落ち込みにより、9 半期ぶりの減収



POINT 経常利益は前半期比7.6%減となるも、期初予想を上回る



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

6

まずは、2024 年 3 月期第 2 四半期の決算概要を説明させていただきます。

半期ベースの実績を過去 4 半期と比較したグラフを示します。

左が売上高と営業利益率、右が経常利益と経常利益率を示しています。当期の上期の実績は、売上高 229 億円、経常利益 45 億円、経常利益率 20.0%、売上高は前年後半からの半導体分野の落ち込みによって 9 半期ぶりの減収となりました。経常利益は前年下期に対して 7.6%減となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





2024年3月期 第2四半期連結決算の概要



半導体分野が非常に好調であった前年上期に対して、

- 売上高は、半導体市場の調整局面入りで、前年同期比4.3%減
- 経常利益は、売上構成の変化や人件費・研究開発費などの増加により、同23.9%減

(百万円)	2023/3期 上期		2024/3期 上期		前年同期比増減	
	実 績	構成比	実 績	構成比	金 額	率
売上高	23,996	100.0%	22,971	100.0%	△1,025	-4.3%
営業利益	5,581	23.3%	4,295	18.7%	△1,285	-23.0%
経常利益	6,033	25.1%	4,590	20.0%	△1,442	-23.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,919	16.3%	2,985	13.0%	△933	-23.8%
1株当たり四半期純利益 (EPS)	64.45円	—	49.42円	—	△15.03円	—

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

7

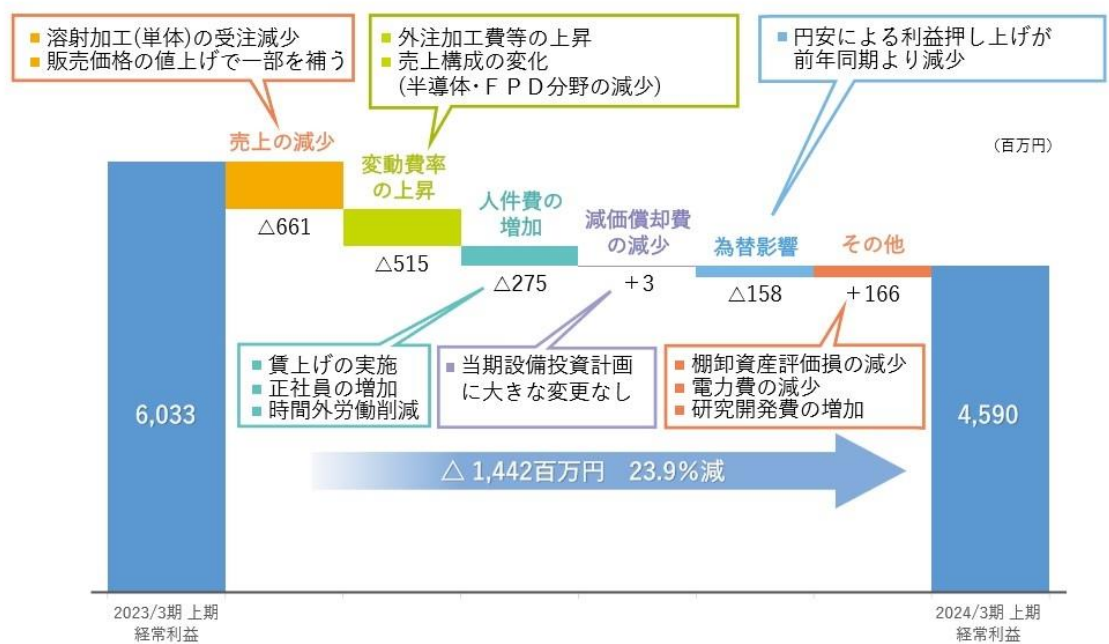
半導体分野が好調だった前年上期に対して、売上高は半導体市場が調整局面に入ったこともあって、前年同期比 4.3%減でした。経常利益は、売上構成の変化の他、人件費や研究開発費などの増加により、前年同期比 23.9%減となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



前年同期比 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

8

経常利益の前年同期比増減分析です。当期上期の経常利益は45億9,000万円と、前年同期比14億4,200万円の減少となりました。主な要因は、売上減少と売上構成の変化に伴う変動比率の上昇、それから、人件費増加などによるものです。

為替影響については、円安による利益押し上げが前年同期よりも1億5,800万円ほど減少することになりました。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



2024年3月期 第2四半期売上高 (分野別)



- 半導体・F P D分野の落ち込みにより、最大セグメントの溶射加工(単体)が減収
- 農業機械部品向けが増加したその他表面処理加工をはじめ、他のセグメントは好調に推移

(百万円)	2023/3期 上期		2024/3期 上期		前年同期比増減	
	実 績	構成比	実 績	構成比	金 額	率
売上高	23,996	100.0%	22,971	100.0%	△1,025	-4.3%
■ 溶射加工(単体)	18,205	75.9%	16,748	72.9%	△1,456	-8.0%
半導体・F P D	12,100	50.4%	9,737	42.4%	△2,363	-19.5%
産業機械	1,739	7.2%	2,224	9.7%	485	27.9%
鉄鋼	1,775	7.4%	1,746	7.6%	△29	-1.6%
その他	2,588	10.9%	3,039	13.2%	450	17.4%
■ その他表面処理加工	1,367	5.6%	1,515	6.6%	148	10.8%
■ 国内子会社	1,197	5.0%	1,230	5.4%	32	2.8%
■ 海外子会社	3,140	13.1%	3,422	14.9%	282	9.0%
受取ロイヤリティー等	86	0.4%	54	0.2%	△32	-37.3%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

9

続きまして、セグメント別の売上高についてです。最大セグメントの溶射加工単体は、産業機械やその他の分野は好調だったものの、半導体・FPD の落ち込みが大きく減収となりました。それ以外のセグメントは好調に推移し、特に農業機械部品向けが増加した、その他表面処理加工セグメントが好調でした。

サポート

日本
 050-5212-7790
 米国
 1-800-674-8375

フリーダイヤル
 0120-966-744
 メールアドレス
 support@scriptsasias.com





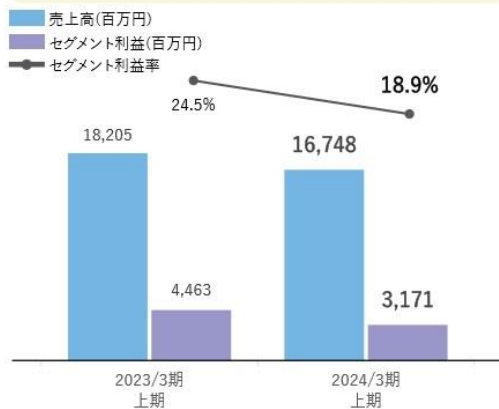
第2四半期連結決算 セグメント別

TOCALO

溶射加工(単体)

産業機械およびその他分野は好調に推移するも、
半導体・FPD分野の落ち込みにより、減収減益

前年同期比増減率 売上高 …… △8.0%
セグメント利益 …… △28.9%

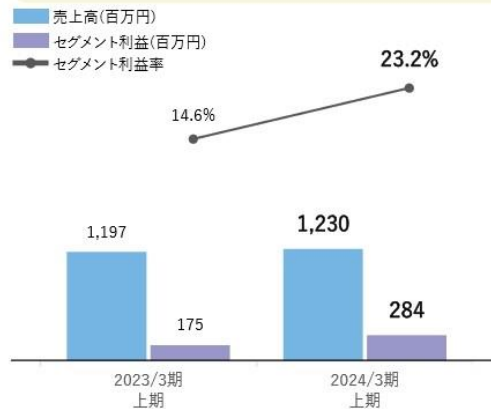


Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

国内子会社

自動車生産の改善で切削工具関係の受注が
回復基調となり、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +2.8%
セグメント利益 …… +62.6%



10

セグメント別の売上利益について、前年同期との比較です。

溶射加工単体は半導体・FPD 分野の落ち込みにより減収減益となりました。

国内子会社は自動車生産などの生産が改善し、切削工具などの受注が回復して増収増益となりました。

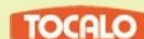
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally



第2四半期連結決算 セグメント別



海外子会社

半導体関連の売上伸び悩みで採算性低下するも、円安の影響が加わり、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +9.0%
セグメント利益 …… +0.3%



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

その他表面処理加工

農業機械部品向けの受注が増加し、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +10.8%
セグメント利益 …… +6.5%



11

海外子会社については、半導体関連の売上伸び悩みで採算性が低下しましたが、円安の影響が加わり増収増益となりました。

その他表面処理加工は、農業機器部品向けの受注が増加し増収増益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報



- 溶射加工(単体) は、半導体分野の売上減少により利益が大幅減
- 国内子会社は、主力の切削工具関係の受注回復により利益伸長
- 海外子会社は、半導体関連の売上伸び悩みで採算性低下するも、円安の影響が加わり利益維持

(百万円)	前年同期比増減							
	2023/3期 上期		2024/3期 上期		売上高		セグメント利益	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	金 額	率	金 額	率
■ 溶射加工(単体)	18,205	4,463	16,748	3,171	△1,456	-8.0%	△1,292	-28.9%
■ 国内子会社	1,197	175	1,230	284	32	2.8%	109	62.6%
■ 海外子会社	3,140	885	3,422	887	282	9.0%	2	0.3%
■ その他表面処理加工	1,367	244	1,515	260	148	10.8%	15	6.5%
合 計	23,909	5,768	22,917	4,604	△992	-4.2%	△1,164	-20.2%

(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティー等」は含まれておりません。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

12

各セグメントの売上利益についてまとめた表を一覧表で示します。

中身は先ほど説明した通りとなっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



財政状態

- 総資産は、前期末比9億62百万円の増加（有形固定資産の増加13億95百万円）
- 自己資本比率は、前期末比0.5ポイント低下の72.0%
- 有利子負債は、前期末比4億44百万円の減少

(百万円)	2023/3期		2024/3期
	2Q末	4Q末	2Q末
総資産	72,454	74,263	75,226
自己資本	52,170	53,839	54,186
自己資本比率	72.0%	72.5%	72.0%
有利子負債残高	3,526	2,802	2,358

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

13

当期第2四半期末の財政状況です。

総資産は752億円、自己資本は541億円、自己資本比率は72%と、健全な状況を維持しています。有利子負債は新規借入もなく、前期比4億4,400万円減少して、23億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



キャッシュ・フローの状況

- 当期のフリーキャッシュ・フロー（営業CF＋投資CF）は＋31億円
- 投資CF／有形固定資産の取得 前期：△9億円 当期：△16億円
- 財務CF／配当金の支払額 前期：△15億円 当期：△16億円
 自己株式の取得 前期：－ 当期：△14億円

（百万円）	2023/3期 上期	2024/3期 上期
営業キャッシュ・フロー	5,005	4,422
投資キャッシュ・フロー	△ 1,353	△ 1,294
財務キャッシュ・フロー	△ 2,430	△ 3,803
現金及び現金同等物の期末残高	20,650	18,995

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

14

当期上期のキャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローが44億円プラスになって、投資キャッシュ・フローはマイナス12億円で、フリーキャッシュ・フローは31億円と健全な状況となっています。財務キャッシュ・フローは配当実施、自己株取得、それから借入金返済でマイナス38億円となっており、その結果、当期第2四半期末のキャッシュ残高は189億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



15

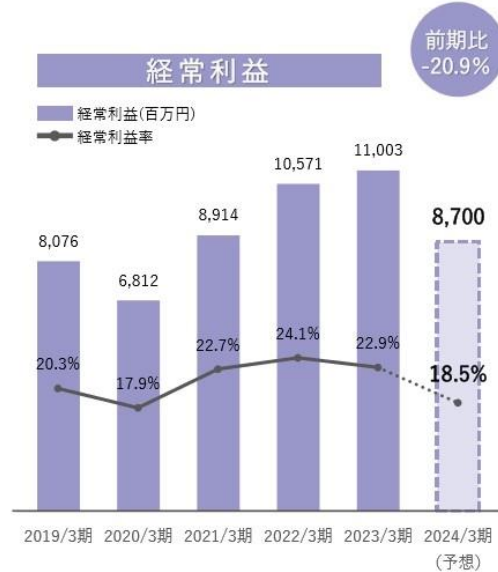
売上高と経常利益の見通し

【2023年5月10日発表の業績予想から変更なし】

TOCALO

POINT 半導体分野の落ち込みにより、
4期ぶりの減収となる見込み

POINT 経常利益は前期比20.9%減と
大きく減少する見通し



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

16

次に、2024年3月期の連結業績予想についてご説明します。

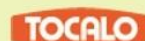
通期業績予想は5月10日発表数値から変更はありません。売上高は470億円、経常利益は87億円、利益率18.5%を目指します。

サポート

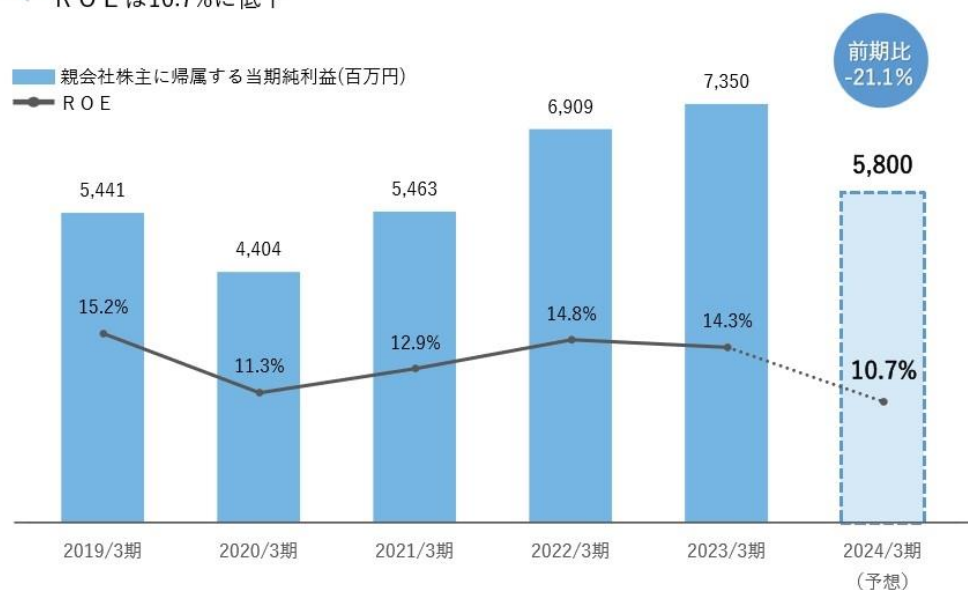
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



親会社株主に帰属する当期純利益と ROE の見通し



POINT 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比21.1%減
ROE は10.7%に低下



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

17

親会社株主に帰属する当期純利益と ROE の通期予想です。

純利益は 58 億円、ROE は 10.7%となる見通しです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



17

2024年3月期 連結業績予想

TOCALO

(百万円)	2023/3期 通期		2024/3期 通期		前期実績比増減	
	実 績	構成比	予 想	構成比	金額	率
売上高	48,144	100.0%	47,000	100.0%	△1,144	-2.4%
■ 溶射加工(単体)	36,184	75.2%	34,063	72.5%	△2,121	-5.9%
半導体・FPD	23,260	48.3%	20,700	44.0%	△2,560	-11.0%
産業機械	3,802	7.9%	3,956	8.4%	154	4.1%
鉄鋼	3,582	7.4%	3,734	7.9%	151	4.2%
その他	5,539	11.6%	5,672	12.2%	133	2.4%
■ その他表面処理加工	2,745	5.6%	2,877	6.1%	131	4.8%
■ 国内子会社	2,414	5.0%	2,656	5.7%	241	10.0%
■ 海外子会社	6,622	13.8%	7,254	15.4%	631	9.5%
受取ロイヤリティ等	177	0.4%	150	0.3%	△27	-15.5%
営業利益	10,558	21.9%	8,700	18.5%	△1,858	-17.6%
経常利益	11,003	22.9%	8,700	18.5%	△2,303	-20.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,350	15.3%	5,800	12.3%	△1,550	-21.1%
1株当たり当期純利益 (EPS)	120.83円	—	96.70円	—	△24.13円	—
自己資本利益率 (ROE)	14.3%	—	10.7%	—	-3.6pt	—

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

18

前期実績との比較表です。売上高予想は、前期実績比 11 億円マイナスとなります。その原因は半導体・FPD における 25 億円の減収です。経常利益予想は前期実績比 23 億円マイナスの 87 億円で、経常利益率は 18.5%となります。

半導体市場が持ち直すタイミングは未だ不透明で予断を許していません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

18

2024年3月期 第2四半期 進捗率

TOCALO

(百万円)	2024/3期 上期		2024/3期 通期		上期実績 進捗率
	実 績	構成比	予 想	構成比	
売上高	22,971	100.0%	47,000	100.0%	48.9%
■ 溶射加工(単体)	16,748	72.9%	34,063	72.5%	49.2%
半導体・FPD	9,737	42.4%	20,700	44.0%	47.0%
産業機械	2,224	9.7%	3,956	8.4%	56.2%
鉄鋼	1,746	7.6%	3,734	7.9%	46.8%
その他	3,039	13.2%	5,672	12.2%	53.6%
■ その他表面処理加工	1,515	6.6%	2,877	6.1%	52.7%
■ 国内子会社	1,230	5.4%	2,656	5.7%	46.3%
■ 海外子会社	3,422	14.9%	7,254	15.4%	47.2%
受取ロイヤリティー等	54	0.2%	150	0.3%	36.3%
営業利益	4,295	18.7%	8,700	18.5%	49.4%
経常利益	4,590	20.0%	8,700	18.5%	52.8%
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益	2,985	13.0%	5,800	12.3%	51.5%
1株当たり当期(四半期)純利益 (EPS)	49.42円	—	96.70円	—	51.1%

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

19

通期業績予想に対する上期実績の進捗率です。売上高は下期に半導体・FPDが回復基調に入ること
を想定した期初予想を据え置きますが、足元はやや厳しい状況にあります。

経常利益については、上期実績が52.8%に達していて、通期予想の87億円に向けてはおおむね順
調に推移していると思っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

2024年3月期 下期予想

TOCALO

POINT 通期予想470億円を据え置くが、
まだ半導体分野の回復は見通せず

POINT 経常利益は、通期予想87億円に向け
おおむね順調



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

20

下期予想を過去5半期と比較したグラフを示します。左が売上高と営業利益率、右が経常利益と経常利益率です。

売上高と経常利益、いずれも期初の通期予想を据え置きますので、この下期予想は上期実績を単純に差し引いた数値となっています。先ほど申し上げた通り、売上高は、足元やや厳しい状況ですが、経常利益は通期予想の87億円に向けて今のところ順調です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally



半導体・F P D分野の売上推移

TOCALO



半導体業界が、昨年度後半から一時的な調整局面に入った影響で、
受注・売上が大きく落ち込む



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

21

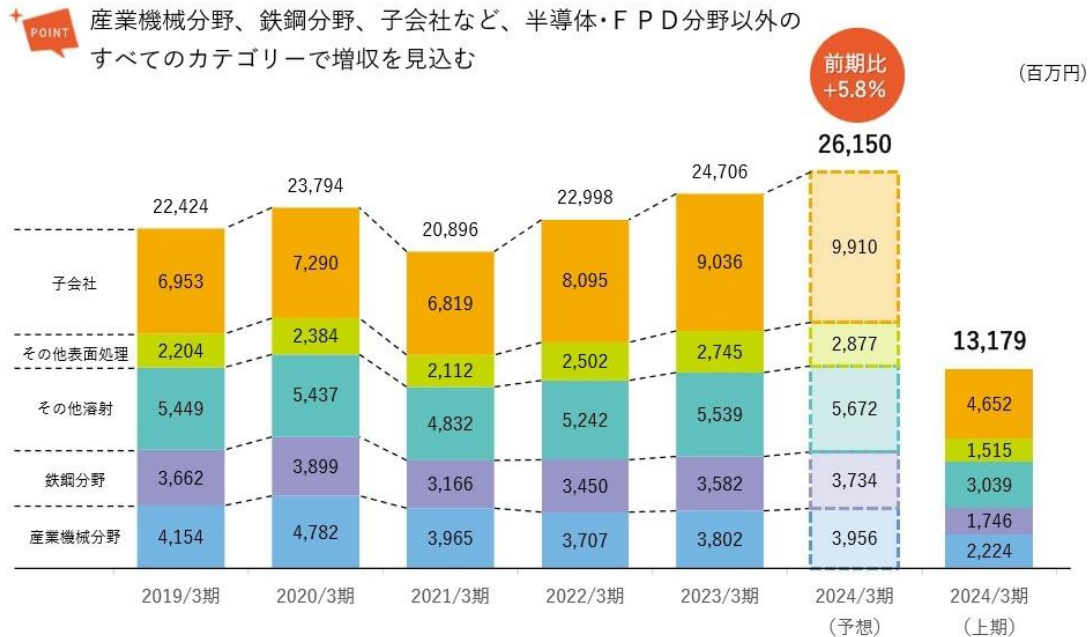
半導体・FPD分野の売上推移です。当期の予想は207億円、うち半導体が194億円、FPDが13億円です。この通期予想に対して、上期の実績は97億円で、進捗率47%となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

半導体・FPD分野以外の売上推移



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

22

半導体・FPD 分野以外の売上推移です。

当期の予想は 261 億円と、前期の 247 億円から 5.8%の増加を見込んでいます。この通期予想に対して、上期の実績は 131 億円で、進捗率 50.4%となっています。半導体のような急成長はありませんが、一步一步着実に伸ばしていきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



設備投資額と減価償却費

TOCALO

POINT 2024年3月期の設備投資予定額 50億円

- トーカロ 26億円：東京・明石・北九州工場を中心に、生産体制の強化・効率化など
- 国内子会社 3億円：生産能力増強など
- 海外子会社 21億円：漢泰国際電子(台湾)での新工場建設ほか



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

23

設備投資額と減価償却費の推移です。当期予想は期初計画から変更なく、設備投資額 50 億円、減価償却費 32 億円を見込んでいます。設備投資額は通期予想 50 億円に対し、上期の実績が 25 億円で、進捗率は 50.9%となっています。

サポート

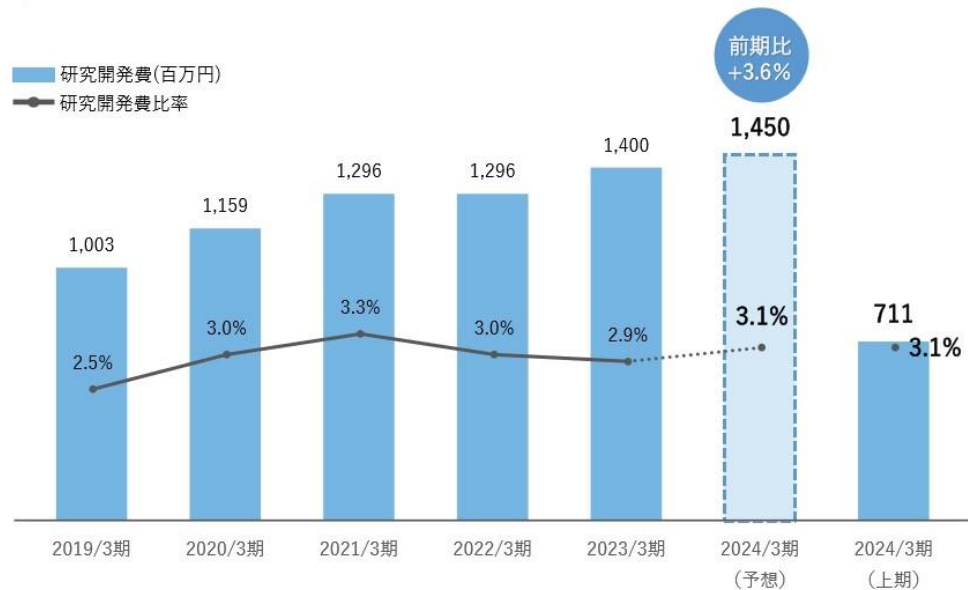
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

研究開発費



POINT 研究開発費は連結売上高比で3%程度を維持



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

24

続きまして、研究開発費の推移です。当期の研究開発費は14.5億円、売上高比率3.1%を見込んでいます。この通期予想に対し、上期の実績は7億1,100万円で、進捗率49%となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



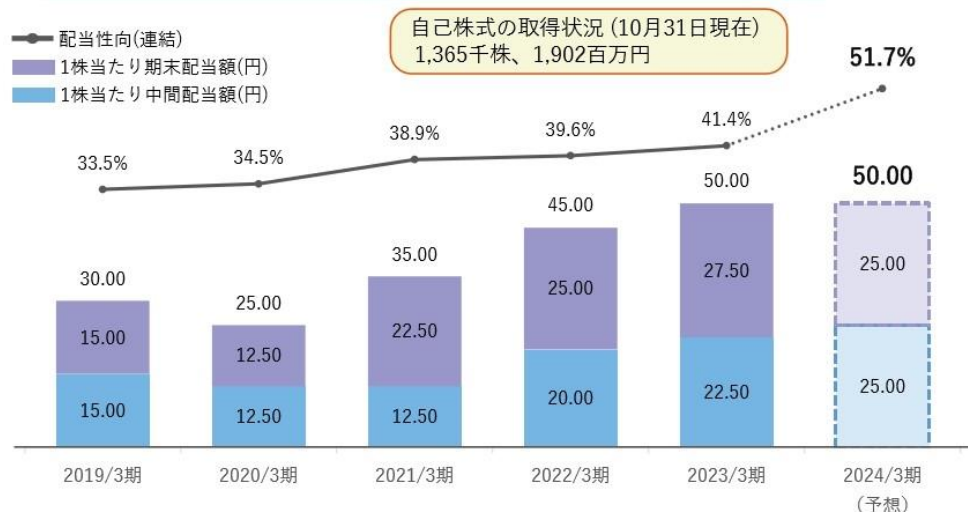
1株当たり配当額と配当性向の推移



2024年3月期の年間配当は50円（配当性向51.7%）を予定

株主還元方針

- 株主還元をさらに充実させるべく、配当性向50%程度を目指す
- 自己株式の取得・消却も、事業環境や財務状況などを考慮して適時適切に実施



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

25

配当額と配当性向の推移です。

当期の中間配当は1株あたり25円といたしました。現時点では期末配当も25円、年間配当として50円を予定しています。配当性向は51.7%の見込みです。また、当期5月から実施しています自己株式の取得は、上限を20億円としていますが、10月末時点で19億円を購入しており、95%の進捗となっています。

サポート

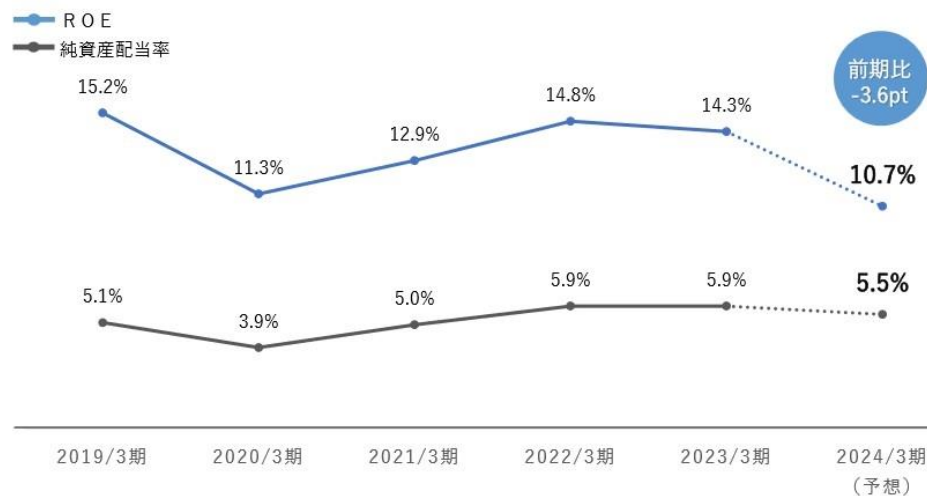
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ROEと純資産配当率の推移

TOCALO

POINT ROE※は10.7%に低下するも、純資産配当率※は5%以上を維持



※ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 / 期中平均自己資本

※純資産配当率 = 1株当たり配当金 / 期中平均1株当たり純資産 (= ROE × 配当性向)

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

26

ROEと純資産比率の推移です。当期はROE10.7%、純資産配当率5.5%程度となる見込みです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

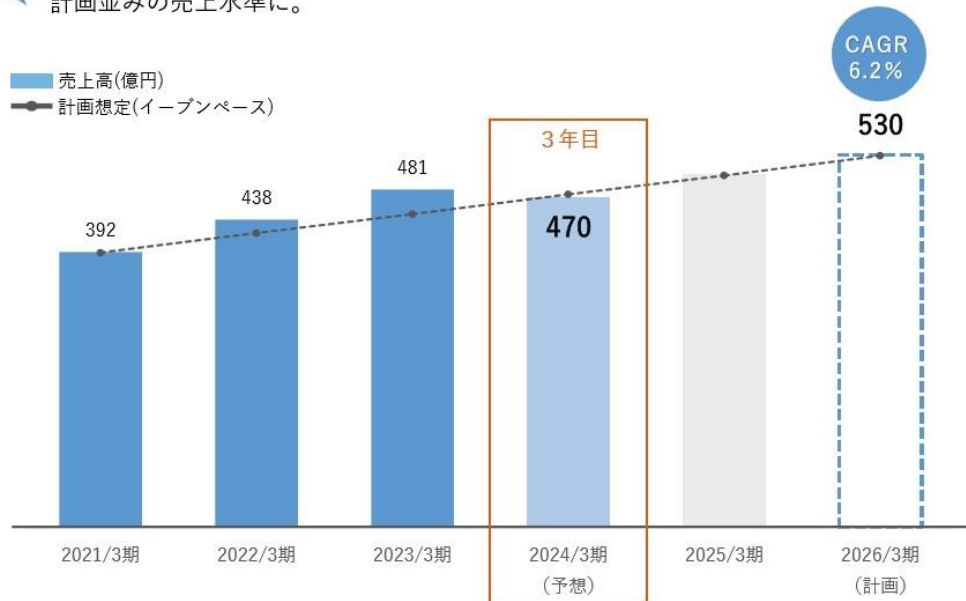
 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally



中期経営計画 (売上高) の進捗状況

TOCALO

POINT 好調であった計画1～2年目の上積みがなくなり、計画並みの売上水準に。



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

28

最後に、中期経営計画の進捗状況についてご説明します。当期は5ヶ年計画で折り返しの3年目に当たります。

中期経営計画の売上目標に対する進捗としましては、当期予想の470億円で、年平均成長率は6.2%、計画水準並みの成長率で推移することになります。2026年3月期目標の530億円に向けては、このまま推移することで達成できるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

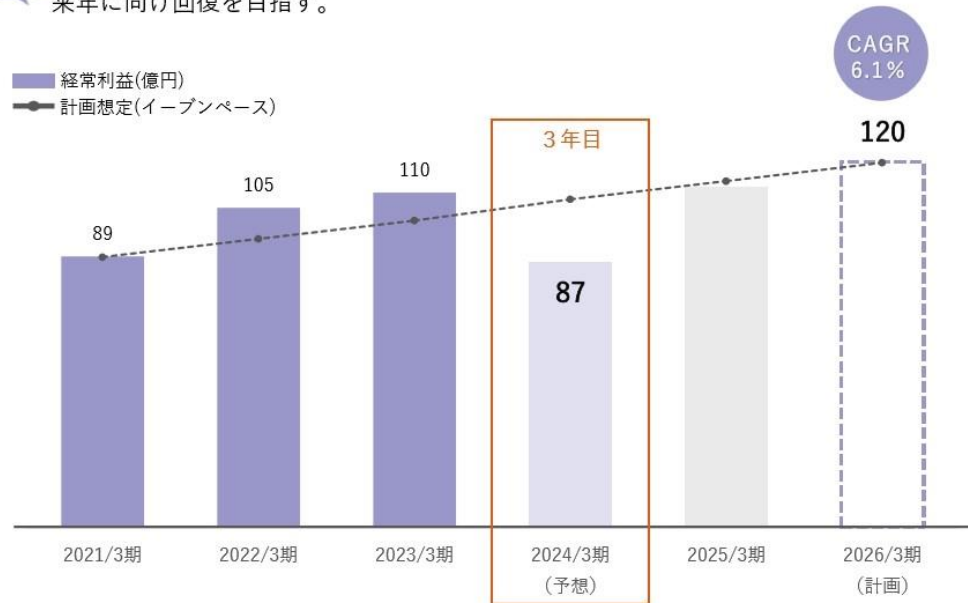
27



中期経営計画（経常利益）の進捗状況

TOCALO

POINT 経常利益は、計画の振り出し（2021年3月期）に戻り、来年に向け回復を目指す。



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

29

経常利益の進捗状況については、半導体分野の一時的な落ち込みによって、計画を大きく下回っています。来年以降は半導体製造装置の回復に期待ができることから、計画最終年、2026年3月期の経常利益目標120億円は達成できるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally



成長戦略の考え方

TOCALO

溶射のトップメーカーとして、既存市場のパイを取り合うのではなく、新皮膜開発&新市場の創出により、溶射市場の拡大を図っていきます。



半導体・FPD

- 微細化、多層化、高アスペクト化への対応（次世代皮膜）

エネルギー

- 風力・水力発電設備の耐久性・発電効率向上
- 脱化石燃料への対策（水素、アンモニア、バイオマス等）
- 環境ビジネスでの案件創出

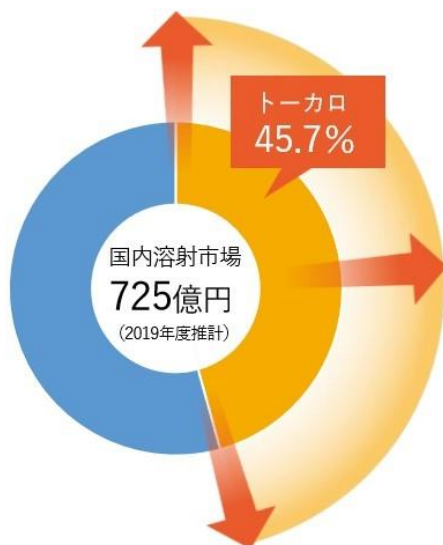
素材

- 2次電池部材、燃料電池部材
- リサイクル設備



新事業領域

- 医療用器具
- 農業機械
- 電気自動車 など



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

30

成長戦略についてですが、当社は溶射のトップメーカーとして、既存市場のパイを取り合うのではなく、新皮膜開発と新市場の創出により、溶射市場の拡大を図っていきたいと思います。この絵の通り、国内の溶射市場の45.7%を今のトーカロが取っている格好にはなっているんですが、これを拡大して、もっと国内溶射市場の拡大を図っていきたいと思っています。

ターゲットとしては環境エネルギー分野、蓄電池などの素材関係、それから医療、農業、電気自動車などにアプローチをしていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

来期以降の設備投資について

TOCALO

POINT 神戸工場に新工場棟を建設（決定）

- 用途・目的 半導体・医療分野などの新規受注、増産、生産効率化
- 所在地 神戸市西区見津が丘1丁目16番5（既神戸工場から 450m、用地取得済）
- 工場概要 3階建、延床面積 3,120㎡（建築面積 1,270㎡）
- 建設時期 2024年5月着工、2025年3月竣工予定
- 建設費用 13億円

POINT 北九州工場に新工場棟を建設（検討中）

- 用途・目的 半導体分野の新規受注、増産、生産効率化
- 所在地 福岡県京都郡苅田町鳥越町10（既北九州工場の隣地、当社保有地）
- 工場概要 2階建、延床面積 約7,500㎡（未定）
- 建設時期 2025年2月着工、2026年春竣工、2026年末稼働（未定）
- 建設費用 32億円（未定）

POINT 東京工場の鈴身事業所に新工場棟を建設（検討中）

- 用途・目的 東京工場行田事業所を特定顧客向け増産へ振り向けるため、一部生産の移転
それに加えて、半導体・農業機械分野の新規受注、増産、生産効率化
- 所在地 千葉県船橋市豊富町631-13（既鈴身事業所から 350m、用地取得済）
- 工場概要等は未定（建設・移設等費用は約30億円となる見込み）

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

31

中期経営計画からちょっと外れるんですが、来期以降の設備投資について、ちょっとご紹介させていただきます。

まず一つ目は、神戸工場に新工場を建設することを決定しました。半導体・医療分野の生産増強、増産それから開発に向けて新しい工場を建設します。これに対して、建設費用 13 億円を予定しております。

続きまして、北九州工場に新工場建設を予定しています。現北九州工場に隣接する土地を所有してまして、その土地に工場建設を予定しています。ここは建設部分を進めることだけが決まっています、設備を含まずに、建設費用として 32 億円を予定しております。

それともう一つ、東京工場に新工場建設を検討しております。当社の東京工場は、行田にある工場と鈴身にある工場とあるんですけど、行田にある工場で半導体分野の生産をしております、その行田の工場の生産キャパをこれからさらに拡大するためには、どうしても行田工場の中にある一般分野の部分とか、ちょっと毛色の違う生産部分を鈴身の工場に移転する必要があるまして、それを新しく鈴身に工場を建てて移転する計画をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

今回のこの鈴身の新工場に関しては、建設費と設備移設、それから設備導入込みで今 30 億円程度を予定していますが、行田工場の更新というか、新しい部分については、現在は計画段階で、この数値には入っておりません。

説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



質疑応答

司会 [M]：ご説明ありがとうございました。それではご案内の通り、最初は会場にお集まりの皆様からの質疑応答に入ります。ご質問のある方は挙手していただければ、係の者がマイクを持ってまいります。

なおこの説明会は質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開の予定です。したがって、もし匿名を希望される場合は質問される際、氏名を名乗らないようお願い申し上げます。では会場の皆様、ご質問いかがでございましょうか。はい、ありがとうございます。今、マイクを持って参ります。後ろから4列目の席の方ですね。はい。どうぞ。

大澤 [Q]：どうもありがとうございます。いちよし証券の大澤と申します。大きく三つ教えていただければと思います。説明資料29ページの中期経営計画の経常利益の考え方ですが、最終年度の120億円の利益目標は、策定段階でちょっと物足りないという印象は正直ありましたけれども、現状達成可能っていう見方をされているのか、再来年度の需要環境が、結局半導体の山谷で、行き着く先とか一緒なので変える必要ないっていう考え方なのか、あるいは元々低かったんで、ちょっと直近の遅れとかでいろいろ変わっちゃっているけど元々低かったんでこれぐらいだったらいけるだろうというようなものか、どういう捉え方をすればよろしいでしょうか、というのが一つ目です。

小林 [A]：いろんな捉え方があると思うんですけども、今期、実際に半導体業界が低迷というか、こういう状況になって止まってしまうと、当社の利益はかなり落ち込んで、今期87億円っていうとんでもない数字になっているんです。これを120億円まで本当に持ち直せるのかっていうのは、本当にその数字が見えているかって言われると、なかなか実際には見えてなくて、でも来年度で昨年並みの数字まで戻るだろうという予測は大方の予測としてあって、最終的にはその成長率でいくならば、この120億円は何とか達成するものではないかと考えています。

大澤 [Q]：わかりました。二つ目は、冒頭でお話あった製造に力を入れられるところで御社の工場は、例えばどちらかという製品が一品一様に近いイメージがありまして、溶射ガンで人なり機械が吹き付けているっていう感じがあるんですけど、こういう中でどういうところを自動化する余地があって、今までずっとされてこられている中で、生産効率の改善とか、もろもろの向上ってというのはどういうところに余地があるのでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



小林 [A] : 溶射プロセスっていうのは実は当社の場合、産業用ロボットを使って自動化、ほぼほぼしているんですね。生産ラインとして例えば製品を入れ替えるとかっていうことになってくると、ライン生産ではないので、自動化できてない部分もあるんですけど、例えば機械加工であるとか、今の IoT を使ってとか、CAD/CAM を使ってとか、そういう部分で一品一様であっても、ある程度先行したプログラムが作れます。それは溶射のロボットの動きに対してもそうだし、機械加工の動きにしてもそうで、一品一様であっても、プログラムを先行して作ることによって自動化をしないと、待ち時間をなくしていくことができるので、そういうことに積極的に取り組むっていうのが一つです。

先ほど私は製造畑で、私の期待されているところはここで、私が目指すのはここだっていう話をしましたけれども、そういう観点から見ているだけで、やっぱりその一品一様から脱却していくっていう話は、同じように、何か受注に向けても進めていって、自動化、あるいは生産効率向上に向けた受注製品の拡大をしていこうと考えております。選択の余地もあるかなと思っています。

大澤 [Q] : ありがとうございます。今お話あったようなことっていうのは、今だからこそ何かできるようになったっていうことなのか、小林社長になられてよりそこにフォーカスしようということになったのか、どういう流れでしょう。

小林 [A] : これは中期経営計画を立てたときから、前社長の三船とも話をして、どういう方向でいくのかっていうのは、何度も話し合いをした結果であると思っています。自動化を進めていくなり生産効率を上げていくなりっていうのは、私がずっとこの会社に入ってやってきたことであるので、私の使命と私は思っていますが、それはトーカロの経営陣が今まで考えてきた中期経営計画に乗った一つの路線であると思っています。

大澤 [Q] : ありがとうございます。最後三つ目が、6月に東京エレクトロンが400層のNANDのチャンネルホールエッチングの装置の技術を発表しまして、これマイナス60度でエッチングする、エッチングガスなんか、ずいぶん構成が変わったりするけれども、御社の溶射において、何かそこで、それだから求められる技術とかなんていうかビジネスチャンスっていうかですね、付加価値高まるとか需要が増えるとか、そういったものは何かありますでしょうか。

小林 [A] : すいません、ちょっと私不勉強で、東京エレクトロンさんのそのマイナスNANDというのはちょっとよくわかっていませんけど、実際に今までその溶射加工してきた中で、マイナス側って割と、マイナス200度とかになっているとちょっと違うんですけど、マイナス50~60度ぐらいまでの範囲でそれほど難しい状況になったことは経験がないので、そこにビジネスチャンスがあ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



るっていうようなことは、もしかしたらあんまりないのかなと、今は思っていますけど、またちょっとそこは調べて、回答させていただきたいと思います。

大澤 [M]：わかりました。どうもありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。他に会場の皆様でご質問ございますでしょうか。ご質問いかがでしょうか。ございませんか。それでは会場でのご質問がないようでしたら、オンラインでご参加の方からの質疑応答に移らせていただきます。

失礼しまして、着席させていただきます。

今現在オンラインのご参加の皆様からのご質問は二ついただいております。まず一つ目でございます。

質問者 [Q]：小林社長の冒頭の方針に、生産の自動化を進めるという話がありました。もう少し具体的な内容を教えてください。現在のどのような工程をどのようにして自動化するのか、それによる省人化の効果はどれくらいなのか、時間軸はどうか。例えば3年後をめどとするなど、でございます。よろしくお願いいたします。

小林 [A]：全てのものについて一様に進められるわけではないので、プロセスごとに説明させていただくと、先ほどもお話しましたが溶射のロボット加工っていうのはもう必須になっていまして、国内外を問わず、ハンドワークを許されないような時代に突入しまして、全てのロボットプログラムを組んでいかないといけないような時代になっています。この時代において、当社の中にもそのプログラムを自動化できるような仕組みなり、それからそういう人員なりを配置して、徐々に一つずつではありますけど、全自動のプログラムを組んでいきます。

ただそれにあたって、先ほどもお話しましたが、搬送システムとか製品の入れ替えまでを含めた自動化っていうことにはならないかもしれないけれども、まずは産業用ロボットの自動プログラミングなんかを中心に溶射のプロセスの方は進めていっています。

もう一つは、さっきもお話しましたが、機械加工の方のプログラムも、NC化だったり、CAD/CAMを使ったプログラムっていうのを進めていまして、そっちの方も設備導入はもう既に終わって、試作的な量産の計画は進んでいまして、今年度中にはおそらくプログラムの確認とか、ということが出来るかまでの把握は完了すると思います。

それから、その状況が確認できた時点から、じゃあどういう製品に適用が可能で、どういう規模のものを集めて集中生産するかというのを検討に入る予定になっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



実際にある程度のターゲットといいますか製品群とかを決めていたんですけども、やっぱりわれわれ受注産業ですので、実はそのターゲットとした製品が失注していて、もう一度加工製品の計画を見直さないといけないような状況にありまして、自分たちの計画だけでは進まない部分もあるんですけど、今期には自動化の目処をつけて、来期からはそういうものを集中生産していく体制を敷いていく予定になっています。

司会 [M]：ありがとうございました。それではお2人目のご質問です。

質問者 [Q]：11月1日の日刊工業新聞に、3棟の新設の記事がありました。神戸工場は、エッチング装置の排ガスを保護するためのコーティング、東京と北九州工場は、エッチング装置の静電チャックやチャンバーパーツ向け溶射を手がけると書いていますが事実でしょうか、というご質問でございます。

小林 [A]：それ専用っていうことだと、若干異なっているかもしれないですが、ちょっと難しい質問で、当社は一つだけの製品全でその工場での製品しか作らないってことはなくて、いろんな製品を作っていく中で、神戸工場ではガス配管系を手がけるっていうことで、この製品を1本釣りするっていうようなことはないですけど、そういう製品も作ります。

それから、先ほどESC（静電チャック）って言われたんですけど、ESCを作る計画はないので、そのESCの情報は間違っていますけど、半導体のエッチング関係のチャンバーパーツを作っていくっていうことで、北九州工場と東京工場は、一応今の計画段階ではそういう予定になっています。

司会 [M]：ありがとうございました。それからオンラインでのご質問、追加で一つきております。

質問者 [Q]：小林社長はまだ就任から半年も経っていないのは承知しておりますが、社長になって初めて認識したトーカロの強み、あるいは弱みをお話ください。よろしくお願いします。

小林 [A]：トーカロの弱みは、先ほどから出ている量産っていうものについての取組みが今まで甘かったなっていうふうに感じています。私も製造畑で歩んできましたけど、やっぱり先ほどご指摘がありましたように、一品一様の加工するものが多くて、一品一様の加工していくんだというのが当社の強みっていうふうに思ってやってきましたが、自分がこの立ち位置に立ったときに、やっぱりちょっとそれは違うかなと。一品一様であっても、もっと自動化をして、生産効率を上げていくためには、そういう量産的な考え方っていうのは常に必要だなっていうのを感じているっていうのが弱みとして感じたところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



強みとしてはですね、いろんな人員がいて、特に当社の場合、営業人員が割と多い。80 名程度の営業人員を抱えておりまして、その営業人員がやっぱり自分の目指すところに向かって進んでいるのは、実は当社の強みじゃないかなと感じています。

よく半導体一辺倒になっているとかと聞くんですけども、実際にはその半導体に取り組めたのも、やっぱり営業マンがちゃんと動いて、取り組んだ結果が半導体の成功に繋がった。次、ポスト半導体って何かなって考えたときに、半導体以外の部門を担当している営業部隊がどういうふうに感じて、どういうふうに進んでいくのかっていうのがわれわれのこれからの将来を決めていくと思っています。営業部隊がたくさんいて、いろんなことで試行錯誤するっていうのがわれわれの強みかなと思っています。

司会 [M]：ありがとうございました。オンラインでご参加された皆様からのご質問は以上でございます。したがって会場・オンライン、両面でご質問は以上ということで、ご質問はこれに尽きるということのようでございます。つきましてはこれをもちまして、トーカロ株式会社様の決算説明会をこれにて終了させていただきたいと存じます。

どうも小林社長様、そして後藤様、細見様、清水様、本日は大変ありがとうございました。

話者 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ご参加の皆様どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com